

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-86	高等学校	地理歴史	地図	
発行者の番号・略号	教科書の記号・番号	教科書名		
130 二宮	地図 312	基本地図帳 改訂版		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

本書は高等学校地理歴史科地図として、地理歴史科（特に地理 A, 地理 B）の授業の際に、地理的・歴史的事象を空間的にとらえさせたり、日本と世界の現状や課題を把握させたりすることで、地理的な見方・考え方はもちろん、地図を活用するという技能を身につけることができるように編修した。本書で得られた知識・考え方・技能は地理歴史科だけでなく、他科目・他教科や高校生活全般、ひいては将来の進路においても活用してもらえるようにし、生徒が多面的かつ地球規模的な視野に立って考えたり、行動したりする態度を養うことのできる地図帳になるよう編修した。

### 1) 大きな判型で大きく見せる世界の一般図

大判にすることで可能になった文字の拡大や大きい図取りにより、教員にも生徒にもより一層見やすい一般図となっている。「東南・南アジア」「カフカス・ペルシャ湾」「アフリカ中・南部」「イタリア・バルカン諸国」「アンデス地方」「ブラジル主要部」を掲載し、東西のつながりを大観したい地域、鉱山が集中している地域や紛争が起きている地域をより詳細に見せて社会的関心と確かな空間認識能力が持てるようにした。

### 2) 大きな判型で広く見せる日本の一般図

日本の一般図では判型が大きくなったことにより、より広い範囲の図取りにすることが可能になり、中国・四国地方を一望でき京都・奈良から九州（大分県全域）までを一図とした「中国・四国」、中部地方（新潟県全域を含む）のほとんどが一図で見られる「中部」などその地域の広がりや周辺とのつながりがよく理解でき、日本についての空間認識が把握しやすいものとした。

### 3) 拡大されて詳細な日本都市図と「東京の地形」「名古屋の地形」「大阪の地形」「横浜の地形」

東京、名古屋、京都、大阪の詳細な都市図を作成した。この図では史跡・名勝などの歴史的観点、名所やテーマパークなどの観光的観点、浄水場、下水処理場、最終処分場などの環境的観点というさまざまな観点から、我が国の政治的・経済的・歴史的拠点となっている大都市について理解できる図となっている。さらに東京、横浜、名古屋、大阪については等高線の段彩だけで表現した地図を収録し、台地と谷、土地の起伏をはっきりさせ、土地利用が主体の都市図と比較することにより、どのような地形上に都市が成り立っているか、自然災害が起きた際にどのような問題が生じるかということを考察させることができるものとした。

## 2. 編修の基本方針

### 1) 美しい配色と詳細な地形描画により見やすくわかりやすい地図帳とする。

●一般図の地形表現から主題図にいたる地図帳全般を通じ、地名等の文字を読み取りやすくするため、明るい色彩にすることに努めた。一般図は全体を通して、標高による段彩表現を行い、平野の緑色系から山地・山脈の茶色系へと色を変化させることで、標高の高いところと低いところを明瞭にし、各地域の地形を把握させることを容易にした。

●地図学習において重要である国名や首都名を大きくし、ほかの地名との差別化を図った。また、国名や山脈名などには文字に白の縁取りを行い、色覚特性のある生徒に対しても配慮した。

●また、地形表現が緻密であるため、海岸線や地形の様子をはっきり読みとることができるようになっており、「フィヨルド」・「リアス海岸」・「鳥趾状三角州」・「エスチュアリー」など、地図で見てわかる地形名称を一般図上に掲載した。

### 2) 最新の情報による現代社会の情勢を反映した地図帳とする。

●主題図を作成するために使用した統計資料や地図などはなるべく最新のものを使用することを心がけた。国内外の地図をはじめ国際連合やその他の国際機関、各国の資料など信憑性の高いデータによって作成し、資料性が高く充実した内容となっている。

●写真は変化の激しい都市の景観写真を中心に、2010年以降の比較的新しい写真を掲載することにより、その地域の「今」を伝えられるものとした。

### 3) 我が国、国土への愛着や関心がわく地図帳とする。

●我が国の国土を一望できる一般図「日本の位置」(p.150)を掲載。日本の東西南北端の写真や、竹島・尖閣諸島の写真を挿入し、国土について視覚的に理解できるものにした。

●統計資料では、日本の自然に関する統計を世界とほぼ同量にし、都道府県に関する統計も充実させて、地図だけでなく数値としても我が国の現状をとらえやすくした。

### 4) 諸外国の現状を学び、他国や異文化を理解ができる地図帳とする。

●世界の一般図の地名は、今日の外国語教育や国際理解教育の普及をふまえ、現地音に近い表記となるよう心がけた。

●大州図のうち、「アフリカ」や「北アメリカ」の図には「同緯度同縮尺の日本」を、「南アメリカ」の図には「地球の正反対側においた同縮尺の日本」を描画した。これにより、日本との位置関係や日本との面積の比較がしやすくなり、諸外国への理解や関心が持てるようにした。

### 5) 地理歴史科の地図として日本史や世界史への活用や、公民科にも活用できる地図帳とする。

●世界の一般図ならびに日本の一般図には、世界遺産、史跡・遺跡、名所・名勝などを記号や文字囲み、また色を用いて示すことによって、一般の地名と一見して区別できるようにした。

●主題図においても「1914年当時の世界」(P.2)、「ヨーロッパの国境の変遷」(P.41)、「アメリカ合衆国の領土の拡大」(P.61)などの歴史分野の内容や、食料問題や環境問題など公民分野でも扱っている内容を取り入れて、地理歴史科だけでなく公民科にも活用することができる地図帳とした。

### 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界の国々 球面上の世界	冒頭のページにあたるので、地球という球面上の世界にいることを認識させた上で、図の多くを日本中心のものとし、世界の中で日本の位置を把握させるようにした（第五号）。	P.2～3 図 1, 3 P.7 図 1, 3
	冒頭のページに世界の独立国全てが見られる図を取り上げ、一覧性を高めて知識の定着と正しい空間認識が身につくようにした（第一号）。	P.2～3 図 1
世界の国々基本データ	世界の独立国全ての国旗を掲載するとともに、おもな国については統計資料や説明文を利用して日本を含む独立国の概要をつかめるようにした（第五号）。	P.8～13
世界の一般図 ユーラシア・アメリカ、東アジア、中国東部、中国拡大図、朝鮮半島、東南・南アジア、インドシナ・マレー半島、南アジア、西アジア・中央アジア、カフカス・ペルシャ湾、アフリカ、アフリカ中・南部、地中海、ヨーロッパ、西・中央ヨーロッパ、ヨーロッパ東部、イタリア・バルカン諸国、イギリス・アイルランド、北ヨーロッパ・アイスランド、スイス、ユーラシア北部、北アメリカ、北アメリカ中央部、アメリカ合衆国西部、アメリカ合衆国中・東部、中央アメリカ、南アメリカ、アンデス地方、ブラジル主要部、太平洋・インド洋、オセアニア、大西洋、北極・南極	世界における国土や環境のようすにかかわる情報を一般図に取り上げ、知識や教養の定着と正しい空間認識が身につくようにした（第一号）。	P.14～73 までの一般図部分
	世界の一般図に世界遺産の記号と名称を取り上げ、ほかの地名と区別がつくような記号と色彩とした（第四号）。	P.14～73 までの一般図部分
	世界の一般図に国立公園の範囲を示す記号とその名称（一部）を取り上げた（第四号）。	P.36～37, P56～59, P70～71
	ヨーロッパの歴史や文化を考える上で欠かせない聖堂・教会、宮殿・城の記号を掲載した（第五号）。	P.42～43
	一般図については遺跡・史跡などの名称を赤字にすることでわかりやすく表記した（第五号）。	P.14～73 までの一般図部分

日本の一般図 日本全図, 沖縄本島・南西諸島, 九州, 中国・四国, 近畿, 近畿・ 中京, 中部, 関東, 関東中央部, 東北, 北海道および各都市図	日本における国土や環境のようすにかかわる 情報を一般図に取り上げ, 知識や教養の定着と 正しい空間認識が身につくようにした (第一 号)。	P.74~105
	日本の一般図に世界遺産の記号と名称を取り 上げ, ほかの地名と区別がつくような記号と色 彩とした (第四号)。	P.77~105
	日本の一般図に国立公園・国定公園の範囲を 示す記号とその名称を取り上げた (第四号)。	P.77~105
日本主題図	農業や工業など産業に関係する図を掲載し, 人 間生活と産業のかかわり合いなどを考察できる ようにした (第二号)。	P.107
世界の地形 身近な地形 自然災害 気候・植生・土壌	多くの模式図や写真を使用して, 世界のさまざ まな自然条件のもとに人々が生活していること を理解させるとともに, 火山や地震などの自然 災害にも触れ, 自然の大切さや恐ろしさ, 災害 に対する生命の尊さを考察できるようにした (第四号)。	P.108~117
環境問題 人口・人口問題 経済と地域統合	地球温暖化や大気汚染などのテーマから, 地球 の自然環境のあり方や自然を保護していこうと する姿勢を養えるようにした (第四号)	P.118
	人口・貿易・環境など今の社会を如実に現し たテーマの主題図を取り上げることにより, 社 会への興味・関心がより一層持てるようにした (第三号)。	P.118 P.119 P.126~127
言語・民族・宗教	文化の例として, 世界や日本の言語や宗教がど のように分布しているかがわかる主題図を掲載 した (第五号)。	P.120~121
農業・食料問題 資源・エネルギー	農業や工業など産業に関係する図を掲載し, 人 間生活と産業の関わり合いなどを考察できるよ うにした (第二号)。	P.122~125
日本の位置	我が国の国土の現状と周辺諸国との位置関係 について理解できるようにした (第五号)。	P.150

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

##### 1) 地図を見るための工夫

大州ごとにページタイトルやインデックスの色を統一することで地図が探しやすく、目的のページに容易にたどり着けるような工夫をした。また世界の一般図にはインデックスマップを入れ、地球上のどの部分の地図を見ているのかがすぐに理解できるようにした。

##### 2) 色覚特性のある生徒への配慮

色覚特性のある生徒にも見やすい地図帳にするため、上記で記載した事項のほかに、①市街地は黄色で表現する、②道路を茶色の2本線で表現する、③主題図の階級区分での色に差をつけるなどの工夫をした。

##### 3) 長期の使用にも対応した用紙と製本

高等学校において地図帳は3年間もしくは4年間の継続的な使用が考えられるので、その使用に耐え得る用紙の選択と頑丈な製本方式での造本を心がけた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-87	高等学校	地理歴史	地図	
発行者の番号・略号	教科書の記号・番号	教科書名		
130 二宮	地図 312	基本地図帳 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

本地図帳は、学習指導要領「地理A」「地理B」を参考にして作成するとともに、主題図の項目配列は系統地理学的視点から配置されているが、地誌学習にも対応できるようにそれぞれの項目には地域ごとの詳細な図版も掲載した。

### 1) 一般図について

●世界の一般図に収録した世界遺産、国際空港、日本からの直行便のある空港、高速自動車道、戦跡、遺跡・史跡、ロケット発射場などや、日本の一般図に収録した政令指定都市、中核市、世界遺産、ラムサール条約指定地、名所・名勝、史跡・遺跡、テーマパーク等の名称は、記号・文字囲みや色を用いて示すことによって、一般の地名と一見して区別できるようにした。さらにこれらの地名等を増やすことによって、地理の分野だけでなく、世界史・日本史・現代社会など地理歴史科・公民科の授業においても効果的に利用できるようにした。

●日本では、縮尺を1:100万と1:115万（北海道、東北を除く）とし、拡大して見せる地域と範囲を広くして見せる地域に分けて掲載した。これにより、47都道府県すべてが図取りで切られることなく見ることができる。人口が集中して地図情報が過密な関東中央部と近畿・中京については1:50万の拡大図で補った。これら一般図には、学校における授業だけではなく日常生活においても広く利用できるように配慮し、最新の資料を収集して、普遍性の高い、辞書的な役割を持たせた。

### 2) 主題図について

●地形や気候など自然環境は、地理の分野の中でも基礎・基本となる部分となるため、世界主題図の先頭に配置した。また、地理Aでは自然災害と防災が設けられていることを考慮し、地形の後に自然災害を学ぶページを設けた。

●人口、農業、資源・エネルギーなど世界主題図のページについては、地理Aと地理Bともに地球的課題を扱っているため、人口問題や食料問題を包括できるような内容にしたり、環境問題のように独立したページとして設けたりするなどの配慮をした。

●日本の主題図では、自然・産業などさまざまなテーマの主題図を掲載し、多面的に日本をとらえられるようにした。農業分野では、写真やイラストも併用して親しみの持てるものとした。

### 3) 統計資料・索引について

- 統計資料については、基本的な事項を取り上げ、世界各国の最新データが読み取れるようにし、索引については国名や首都名、県庁所在地などに着色や太字を用いて検索しやすくなるようにした。
- 歴史、政治経済、文化、観光などのテーマ的索引を設けることにより地名への関心を高めるようにした。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
世界の国々	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	P.2~3	
球面上の世界	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	P.6~7	
世界の国々基本データ	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (3) イ 現代世界の諸地域	P.8~13	
世界の一般図 (ユーラシア・アメリカ～ 北極・南極)	世界の一般図(本図)については、高等学校教科用図書 検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成した。	P.14~73 の 一般図部分	
日本の一般図・都市図 (日本全図～ 北海道)	日本の一般図(本図)と都市図については、高等学校教 科用図書検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成 した。	P.74 ~ 105 の一般図部 分	
日本主題図	地理 B (3) イ 現代世界の諸地域 地理 B (3) ウ 現代世界と日本	P.76 P.106~107	
世界の地形 身近な地形	地理 B (2) ア 自然環境	P.108~112	
自然災害	地理 A (2) イ 自然環境と防災 地理 B (2) ア 自然環境	P.113	
気候・植生・土壌	地理 B (2) ア 自然環境	P.114~117	
環境問題	地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) ア 自然環境	P.118	
人口・人口問題	地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) ウ 人口, 都市・村落	P.119	
言語・民族・宗教	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (2) エ 生活文化, 民族・宗教	P.120~121	

農業・食料問題	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.122~123	
資源・エネルギー・産業	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.124~125	
経済と地域統合	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.126~127	
統計資料	左に示した統計資料は, 高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地図)]に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.128~135	
事項索引 地名索引(世界), 地名索引(日本)	左に示した統計資料は, 高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地図)]に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.136~148	
地質年代表	地理 B (2) ア 自然環境	P.148	
地図投影法と地図の 歴史	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	P.149	
日本の位置 日本の行政区分	地理 B (3) イ 現代世界の諸地域 地理 B (3) ウ 現代世界と日本	P.150~151	